＝　普　及　情　報　＝

Ｎｏ．12

令和８年１０月６日

東部農林水産振興センター雲南事務所農業部

標題	令和８年「つぶきらり」（島系８４号）ほ場見学会を開催 ～米どころ雲南の新しい「顔」として～

（ダイジェスト）

夏季の異常高温による主食用米の品質低下への対策として、島根県では新品種「つぶきらり」を育成し、今年度は県内11カ所で栽培技術の確立に向け実証ほを設置しています。当部では、雲南市三刀屋町に設置した実証ほを用いて、「つぶきらり」の品種特性等への理解を深めることを目的にほ場見学会を開催しました。ほ場見学会には30名程度の水稲生産者、関係機関・団体が参加し、「つぶきらり」への理解を深めました。

近年、夏季の異常高温により島根県の主食用米は平坦部の「コシヒカリ」を中心に一等米比率が大きく低下しています。そうしたことから、島根県では「コシヒカリ」と同程度の熟期で高温に強く、品質の良い新品種「つぶきらり」を育成しました。

当管内においても、「コシヒカリ」における品質低下が確認されており、早期対策が必要となっています。そこで、雲南市三刀屋町に設置している実証ほを用いて、管内の水稲生産者、関係機関・団体を対象に「つぶきらり」ほ場見学会を開催しました。

見学会では農業技術センターより「つぶきらり」の品種特性を説明され、当部より実証ほの栽培概要や生育状況について説明しました。

また、見学会開催時期は、水稲の収穫開始直前であったため、当部作成の収穫適期判定シートを用いて適期収穫による品質確保について説明しました。

その後、参加者と「つぶきらり」実証ほの生育状況を観察するとともに、対照区の「コシヒカリ」との比較を行いました。生産者からは、「施肥量はどのくらいが良いか？」、「今後の一般栽培に向けた流れはどうなるのか？」等の意欲的な質問が多く、関心の高さがみられました。

当部では本年産の実績等を踏まえた課題整理とともに高温耐性品種への転換などの異常高温による品質低下への対策を関係機関・団体と連携して講じることで、生産性の高い米づくりにつながる取組を引き続き支援していきます。



写真１　ほ場見学会の様子



写真２　収穫適期判定シート活用の様子

担当者	雲南地域振興第二課	玖島　杏	TEL0854-42-9529